

【照会先】

健康保険組合連合会

医療部 医療・情報グループ

TEL:03-3403-0987 (ダイヤルイン)

平成19年11月20日

「医療に関する国民意識調査」

調査結果報告の要旨

健康保険組合連合会

健保連は本年9月に、国民の皆様には医療問題について幅広くアンケート形式による意識調査を実施致しました。この度、結果を取りまとめましたので、ご報告致します。

1. **医療機関の受診のあり方**...「最初にきまった医師を受診し、医師の判断で必要に応じて病院等を受診する」に賛成する回答が過半数。ただし、登録医制のような厳格な方法には不安を感じている。

日頃からきまった医師ないしは医療機関を受診している方が回答者全体の73.0%、また、病気になるといつも相談する医師がいる方のうち、82.8%の方が一般診療所を受診しています。

医療機関の受診のあり方については、「最初にきまった医師を受診し、医師の判断で必要に応じて病院等を受診」するという考え方に賛成する回答が53.0%と過半数を占めました。その理由としては「自分だけで適切な医療機関を選ぶことが難しい」(67.2%)、「自分のことを良く知っている医師を受診した方が安心」(60.9%)という回答が上位となっています。

ただし、賛成した方でも、一般診療所の医師を事前に選んで登録しておき、最初にその医師を必ず受診し、救急以外では病院を自由に受診できないといった厳格な方法には、何らかの不安を感じるとの回答が79.3%にのぼっています。

2. **医療への満足度**...「不満」を持つとの回答が5割近くあり、「医療機関への要望がある」との回答は8割に迫る。「待ち時間を短く」「病気の状態や治療法の説明」「夜間・休日の救急時の診察」が要望の上位に。

医療機関への要望としては、「待ち時間を短くして欲しい」(70.2%)、「病気の状態や治療法をよく説明して欲しい」(53.4%)、「休日や夜間でも、救急の時は診察して欲しい」(42.4%)が上位にあがりました。

また、今後の医療のあり方については「医療従事者の確保・育成」(71.5%)とともに、「夜間・休日の救急医療体制の整備」(64.1%)、「長期入院できる医療機関の整備」(48.8%)が上位にあがっています。

3. **医療費について...**国民医療費は「高い」が7割を超え、個人負担は「重い」が8割近くに。医療費をまかなう方法は「税金」、抑制方法は「ジェネリック」と「病気の予防」。

健保連が平成10年に調査した結果に比べて、国民の負担について「窓口負担」(33.9% 48.2%)、「保険料」(54.9% 62.2%)、「医療費そのもの」(52.4% 60.6%)の全ての項目で、重いと感じるという回答が増加しましたが、特に「窓口負担」の回答数が最も増加しました。

「医療費を抑制するには？」という問には「ジェネリック医薬品の普及」との回答が60.9%を占め、次いで「特定健診・保健指導等による病気の予防」が53.5%となっています。

4. **ジェネリック医薬品について...**服用した感想は「効き目」、「安全性」、「窓口負担」ともに高評価。

服用したことがある方はまだ少数派ですが、服用した方のうち「効き目は変わらない」「安全性に不安を感じなかった」という回答がそれぞれ72.7%、73.9%となっており、「窓口負担がかなり安くなった」との回答も46.7%となっています。

5. **医療保険者への満足度...**健保組合は共済組合に次いで2位。今後、充実を希望するサービスは「医療機関情報の提供」、「医療費の補助」、「健診事業」。

各医療保険者への満足度を、回答者が所属する医療保険の管掌別にクロス集計したところ、健保組合加入者の満足度は共済組合に次いで高くなっています。また、充実を希望するサービスについては「医療機関情報の提供」(39.0%)、「医療費の補助」(38.6%)、「健診事業」(30.2%)などが上位を占めています。

以上

【照会先】

健康保険組合連合会

医療部 医療情報グループ

TEL:03-3403-0987 (ダイヤルイン)

医療に関する国民意識調査

- 調査結果報告 -

調査の概要

1 調査の目的

本調査「医療に関する国民意識調査」は、昨今の医療制度改革の流れの中で、一般国民が現在の医療に対して抱いている様々なニーズ等のデータを広く収集・分析し、今後の医療政策の検討に資する基礎資料を整備することを目的として実施した。

2 調査の方法と内容

1 調査対象

㈱日本リサーチセンターが保有する全国のNRCパネル64,087人から、地域・都市規模等の母集団比率に応じて層化し、2,000人を抽出した。

2 調査方法

アンケート法（自記式：郵送発送・郵送回収）

実施時期：平成19年9月

回収数：1,263人（回収率63.2%）

3 調査内容

調査内容は下記の通り。

図表 1-1 調査内容

区 分	内 容
基本属性項目	年齢、性別、所在地、世帯類型、職業、加入している医療保険 特定健診・保健指導の認知度、後期高齢者医療制度の認知度、受診状況 等
調査項目	決まって相談・受診する医師、医療機関の状況 高齢期における療養場所に関する意向 終末期医療に関する意向 現在の医療の満足度 医療機関への要望 わが国の医療のあり方として希望すること 医療費に関する意向 ジェネリック医薬品の認知度・服用経験・服用した感想 医療保険者からのサービスの満足度・充実に期待するサービス 等

結果の概要

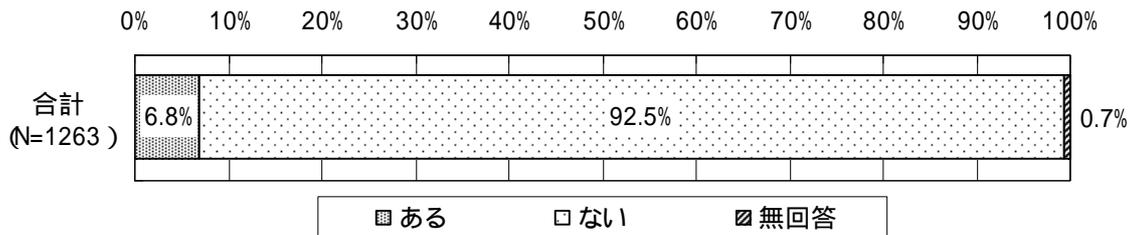
1 医療機関のかかりかた

1 最近1年間での受診状況

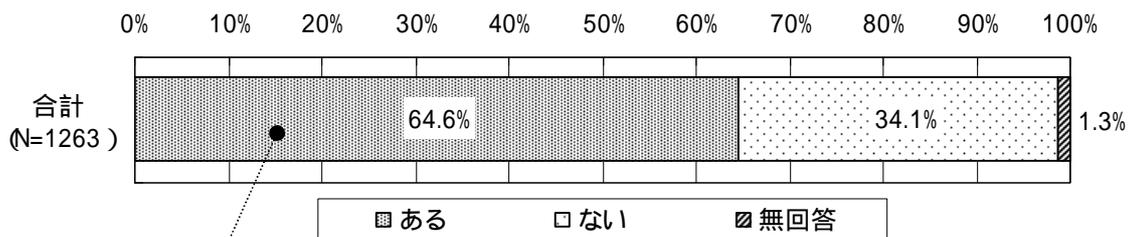
入院の経験 6.8%

外来の経験 64.6% (そのうち 21.3% [対象者全体の 13.8%] は重複受診の経験あり)

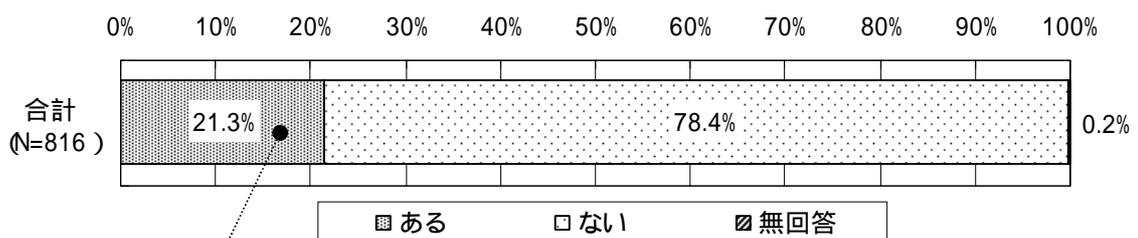
図表 2-1 最近1年間での入院の有無



図表 2-2 最近1年間での外来受診の有無



図表 2-3 同じ病気やケガで同時期に複数医療機関を受診した経験の有無

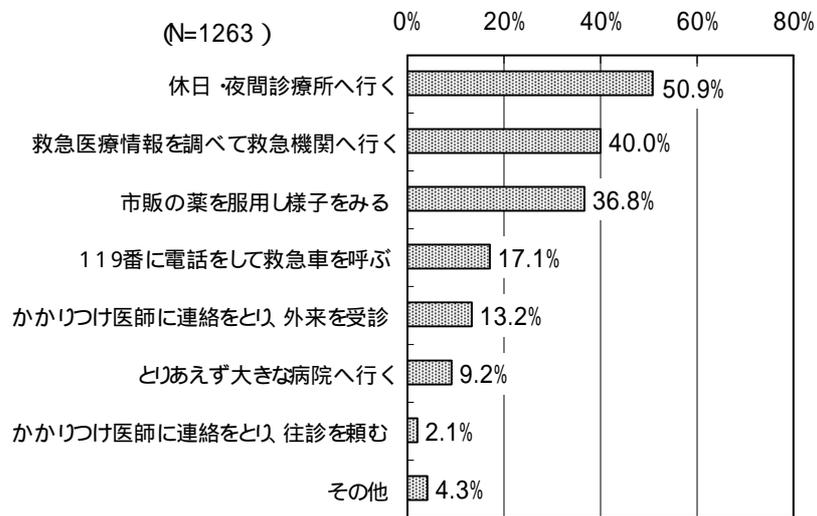


図表 2-4 同じ病気やケガで同時期に複数医療機関を受診した理由

[N=174]		
	件数	割合
先に受診していた医療機関・医師からの紹介で、他院で専門的な検査等を受けた	76	43.7%
先に受診していた医療機関・医師からの紹介で、他院のセカンドオピニオン外来を受診した	7	4.0%
先に受診していた医療機関・医師の診察内容等に不満があり、自分の判断で他院を受診した	70	40.2%
その他	27	15.5%

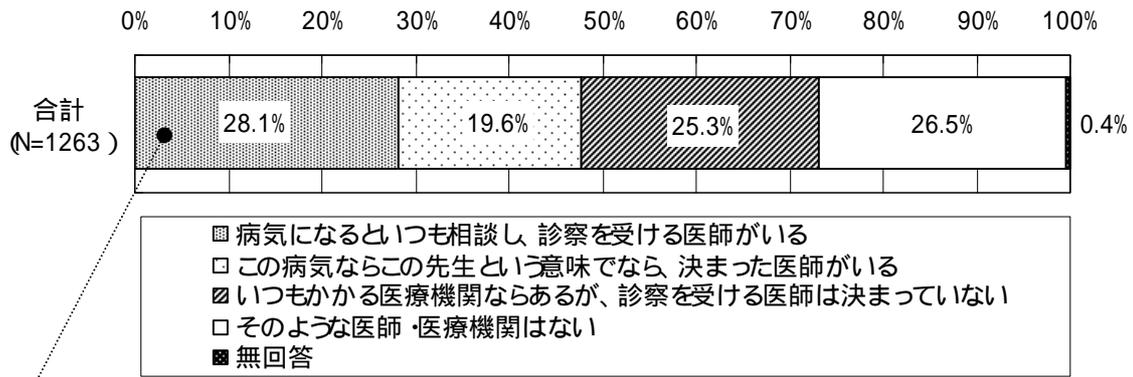
- 救急時の対応：第1位 休日・夜間診療所へ行く 50.9%
 第2位 救急医療情報を調べて救急医療機関へ行く 40.0%
 第3位 市販の薬を服用し様子をみる 36.8% …等

図表 2-5 深夜や休日などに具合が悪くなったときの対応（複数回答）

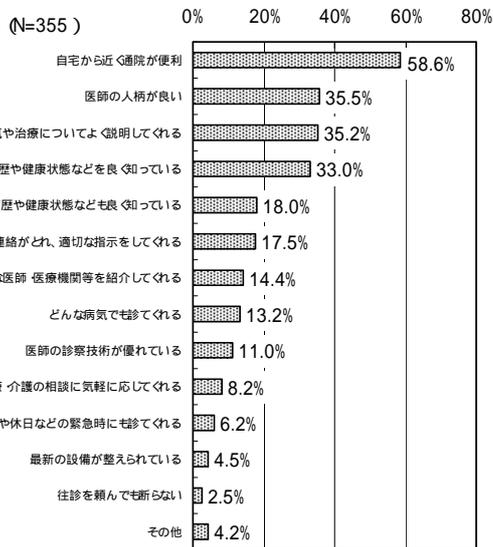


2 日頃から健康相談や、病気のと きにきまって受診している医師・医療機関の有無

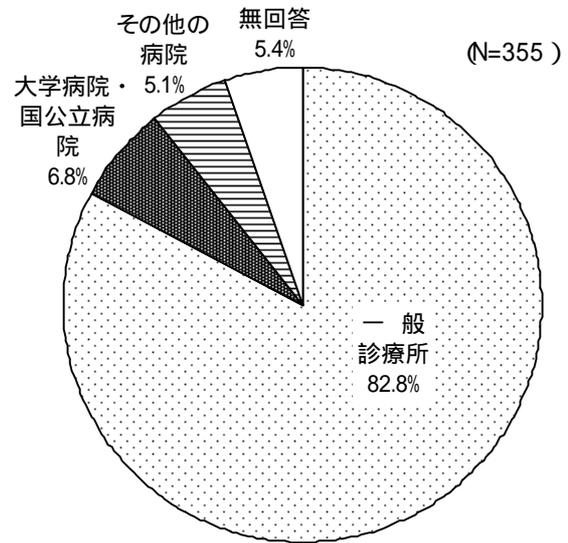
図表 2-6 日頃から相談・受診している医師・医療機関の有無



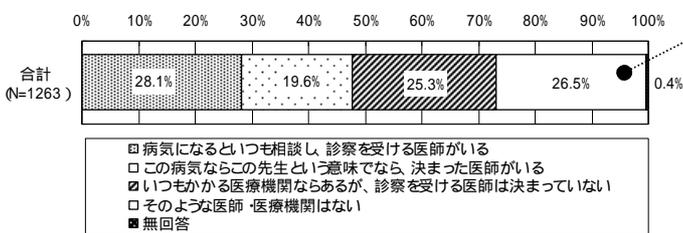
図表 2-7 その医師に決めた理由 (複数回答)



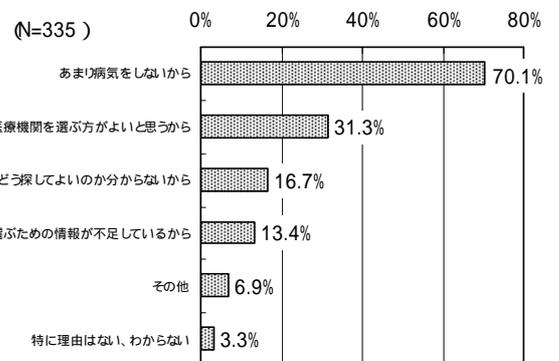
図表 2-8 その医師のいる医療機関



図表 2-6 日頃から相談・受診している医師・医療機関の有無 [再掲]

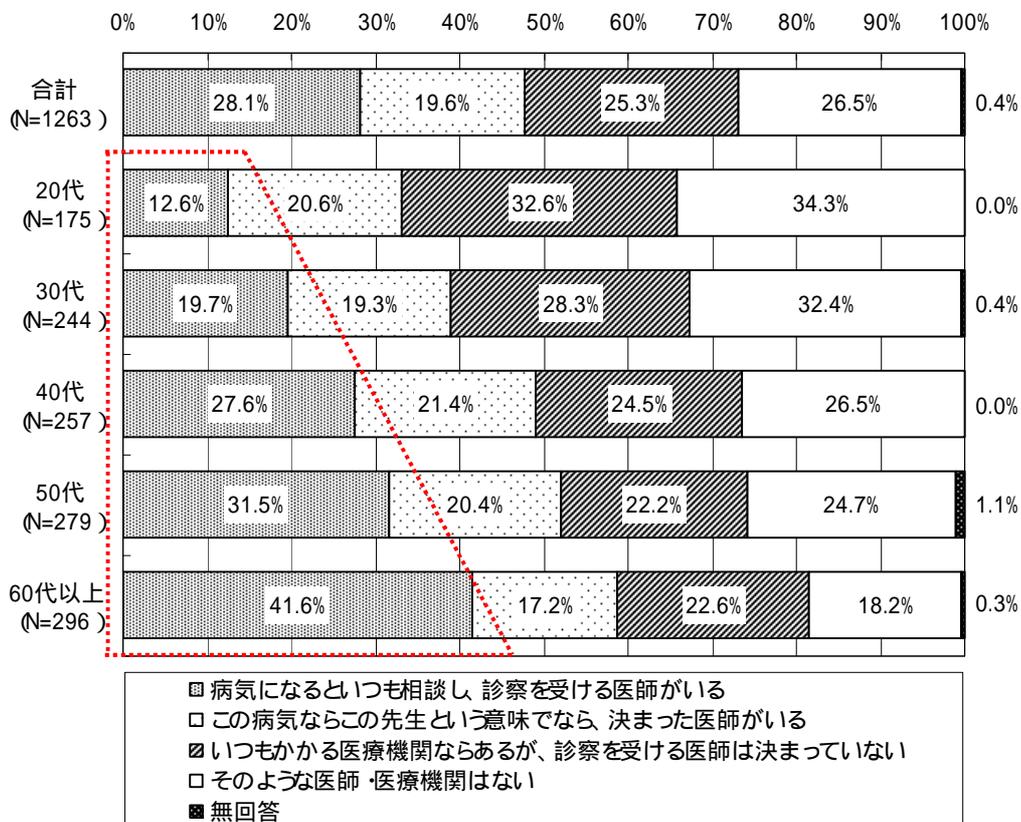


図表 2-9 きまった医師・医療機関をもたない理由 (複数回答)



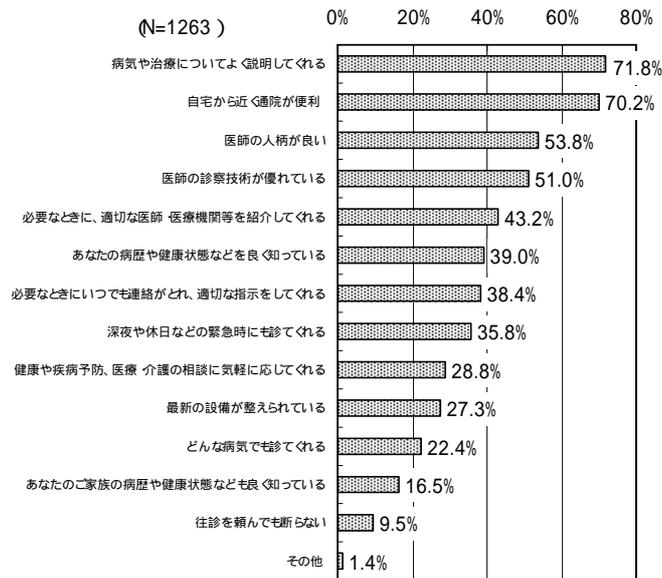
日頃から相談・受診している医師・医療機関の有無について年齢階層別にみると、病気になるといつも相談し、診察する医師がいるとの回答は、年齢階層が上がるとともにその割合が増加傾向にあることがわかる。

図表 2-10 日頃から相談・受診している医師・医療機関の有無；年齢階層別



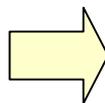
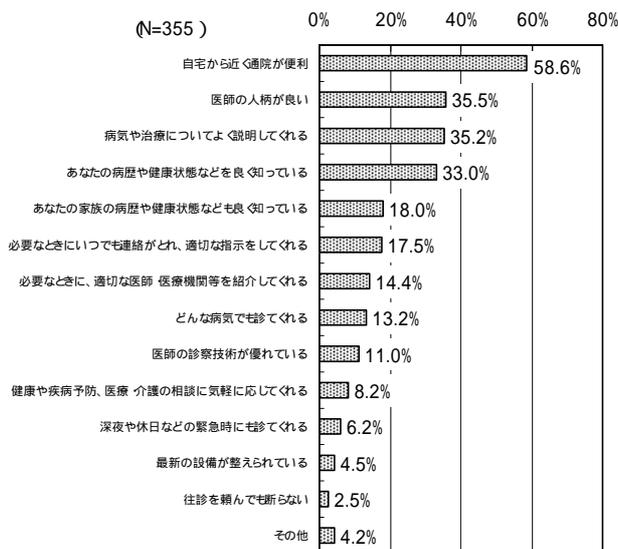
3 日頃から健康相談や、病気のとときにきまって受診している医師・医療機関への期待

図表 2-11 日頃から相談・受診している医師・医療機関へ現在期待すること（複数回答）

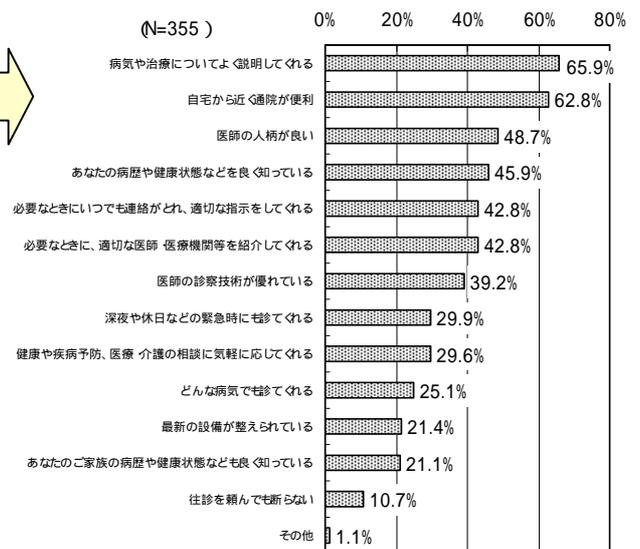


[参考] 日頃から相談・受診している医師がいる人：その医師に [決めた理由] と [現在期待すること]

図表 2-7 その医師に決めた理由 [再掲]



図表 2-12 現在期待すること



図表 2-13 [その医師に決めた理由] よりも [現在期待すること] において順位を上げたもの

	決めた理由	期待すること
病気や治療についてよく説明してくれる	3 位	1 位
必要なときにいつでも連絡がとれ、適切な指示をしてくれる	6 位	5 位
必要なときに、適切な医師・医療機関等を紹介してくれる	7 位	6 位
医師の診察技術が優れている	9 位	7 位
深夜や休日などの緊急時にも診てくれる	11 位	8 位
健康や疾病予防、医療・介護の相談に気軽に応じてくれる	10 位	9 位
最新の設備が整えられている	12 位	11 位

4 医療機関の受診のあり方に関する考え方

以下のAとBの2つの考え方についての賛否について回答を求めた。

A．病気の症状の程度に関わらず、病院と診療所の区別なく自分の選んだ医療機関を受診する

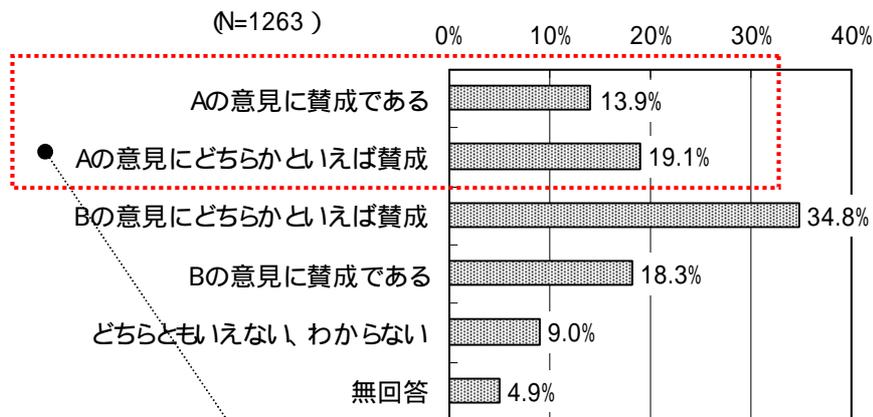
B．最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する

Aの考え方に賛成・どちらかといえば賛成：33.0%

Bの考え方に賛成・どちらかといえば賛成：53.0%

どちらともいえない・わからない：9.0%

図表 2-14 医療機関の受診のあり方に関する考え方

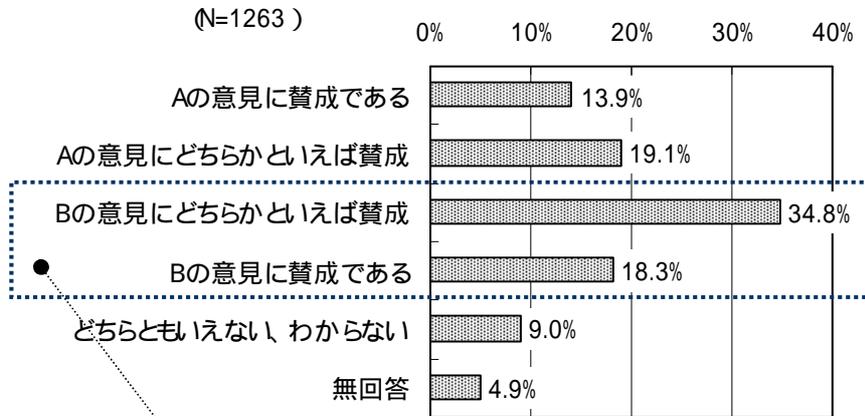


図表 2-15 Aの意見に賛成の理由（複数回答）

[N=417]		件数	割合
その都度、そのときの症状に応じて専門医に診察をしてほしいから		342	82.0%
いつも同じ医師の診断ばかり受けていては不安だから		93	22.3%
いつも高度な医療機能をもつ大病院を受診したいから		77	18.5%
その他		18	4.3%
わからない		7	1.7%

- A . 病気の症状の程度に関わらず、病院と診療所の区別なく自分の選んだ医療機関を受診する
- B . 最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する

図表 2-14 医療機関の受診のあり方に関する考え方 [再掲]



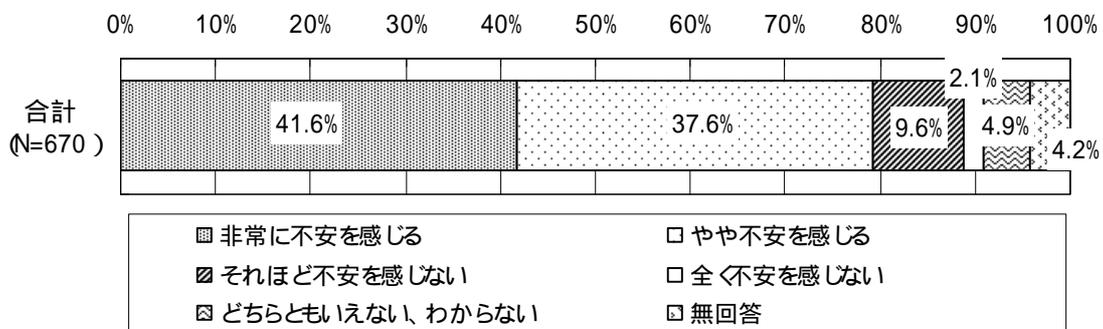
図表 2-16 Bの意見に賛成の理由 (複数回答)

[N=670]		件 数	割 合
自分だけで、そのときの症状に応じて適切な医療機関を選ぶことが難しいから		450	67.2%
自分のことを良く知っている医師にまずは受診した方が安心だから		408	60.9%
医師によって診断結果が異なるのが不安だから		81	12.1%
その他		22	3.3%
わからない		3	0.4%

さらに、例えば、一般診療所の医師を事前に選んで登録しておき、体に何か不調を感じたときには、最初にその医師を必ず受診し、救急以外では病院を自由に受診できない - とした場合の感想を求めた。

非常に不安を感じる・やや不安を感じる：79.3%

図表 2-17 上記の想定の場合の感想

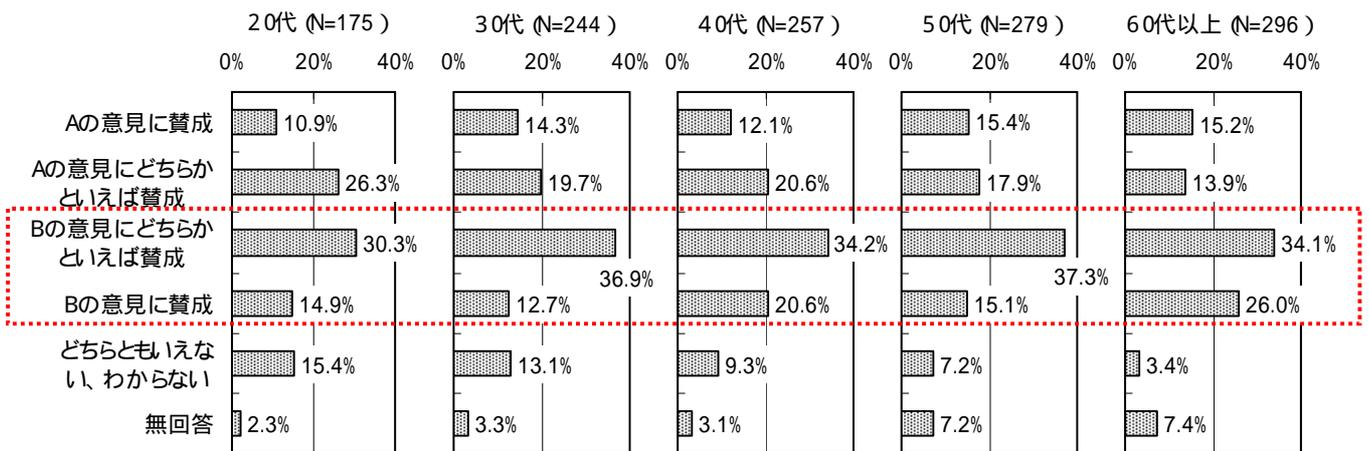


- A．病気の症状の程度に関わらず、病院と診療所の区別なく自分の選んだ医療機関を受診する
- B．最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する

AとBの2つの考え方についての賛否について年齢階層別にみると、いずれの年齢階層においてもBの意見にどちらかといえば賛成との回答が3割を超えている。

また、60歳以上の年齢層では、Bの意見に賛成の回答割合が他の年齢階層に比べてやや高くなっている。

図表 2-18 医療機関の受診のあり方に関する考え方；年齢階層別



2 在宅医療について

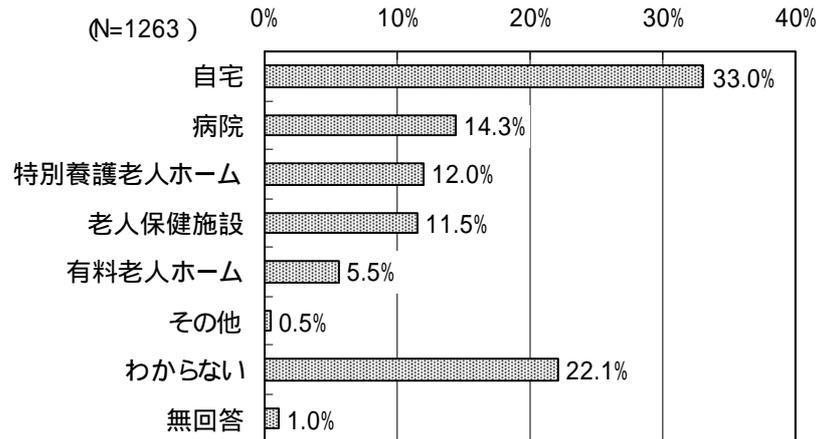
1 高齢期に寝たきりになった場合に希望する療養場所

第1位 自宅 33.0% 第2位 病院 14.3% 第3位 特別養護老人ホーム 12.0%

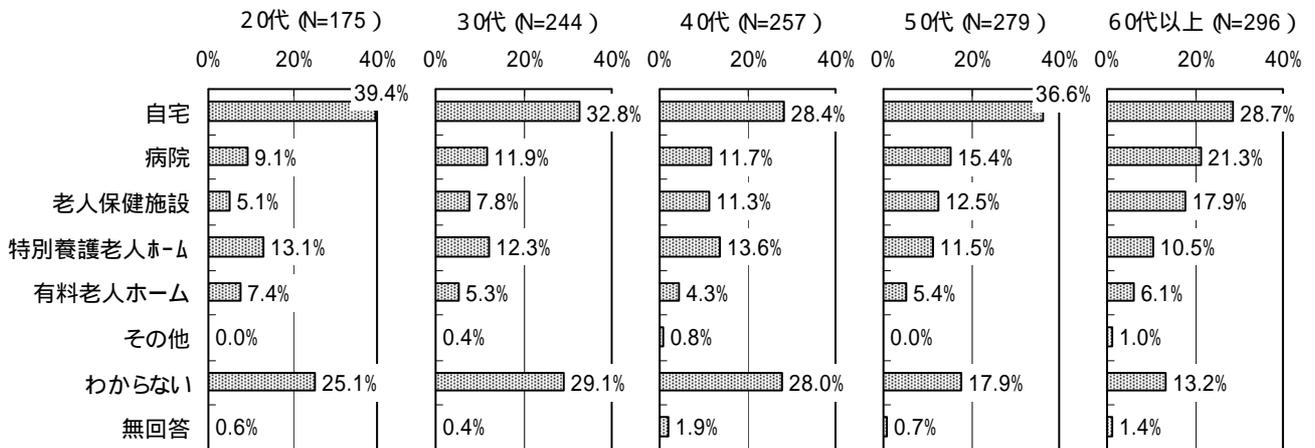
年齢階層が上がるに従って希望する割合が増加する療養場所

：病院、老人保健施設

図表 2-19 高齢期に寝たきりになった場合に希望する療養場所



図表 2-20 高齢期に寝たきりになった場合に希望する療養場所；年齢階層別



2 終末期医療に関する考え方

疼痛緩和中心の症状コントロール、精神的援助、家族への援助を受けたい：72.1%

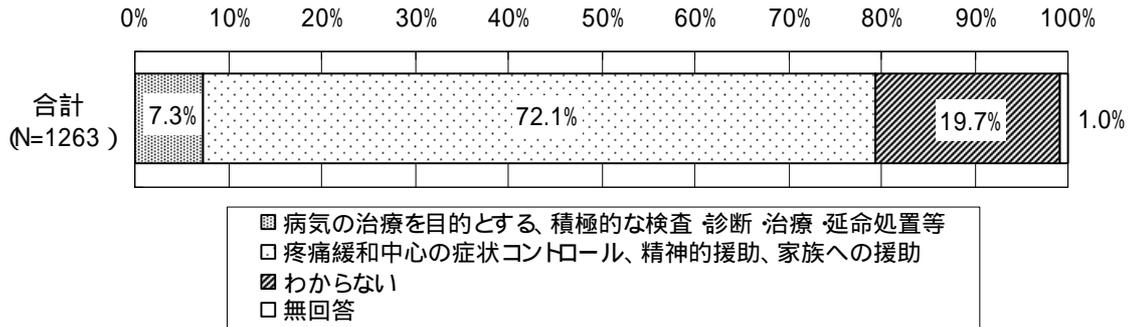
終末期医療を受けたい場所：第1位 自宅 31.0% 第2位 緩和ケア施設 29.4%

自宅で最期まで療養するために必要なこと

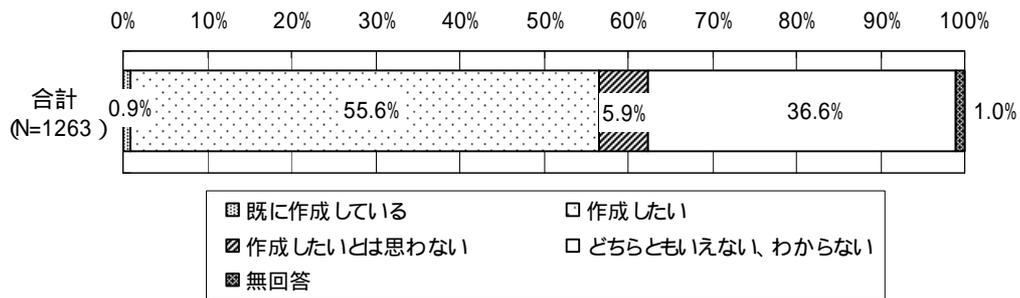
第1位 往診・訪問診療をしてくれる医師 74.2%

第2位 介護してくれる家族 74.0% ……等

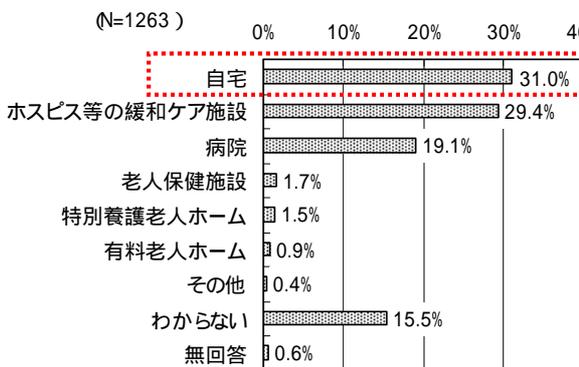
図表 2-21 希望する終末期医療の内容



図表 2-22 事前の意思確認書の作成意向



図表 2-23 終末期医療を受けたい場所



図表 2-24 自宅で最後まで療養するために必要なこと（複数回答）

